

今回は、日本考古学協会総会高校生ポスターセッションの報告です！

## ◇ 高校生ポスターセッションとは何か

日本考古学協会では、将来の日本の考古学を担う若手研究者の育成を目的として、毎年5月の総会時の研究発表会に合わせて、2016年度から高校生ポスターセッションを実施しています。考古学に関連する調査・研究の取り組みを、高校生であれば、個人・団体を問わず応募できます。関高校では、2016年度よりこの取り組みに参加しています。2020年度は、コロナ禍のため、イベント自体が休止となりましたが、関高生の作品は、ここ3回のポスターセッションで、上位入賞を果たしています。

コロナ禍以前は、研究発表会の会場にポスターを掲示し、多数の研究者を前に、自分たちの研究成果を発表するという対面形式でしたが、昨年度はポスター作品提出で、今年度はオンラインで発表が行われました（右写真、2022年5月29日）。



## ◇ 関高生の研究発表

今回、関高生は、①戦時中の陸軍秘匿飛行場の調査、②岐阜県山間地に残るトチノミ食の調査のふたつを発表し、秘匿飛行場の研究が優秀賞を受賞しました。審査員の先生方からのコメントは以下の通りです。

岐阜県立関高等学校 地域研究部（河路康太・小原和也・渡邊貫太）  
「陸軍秘匿飛行場跡を追うー岐阜県内の事例からー」

本発表は、歴史の中に埋もれようとしていた岐阜県内の秘匿飛行場の存在を明らかにし、歴史的な意味を考察し、地域に伝えようとした研究活動をまとめたものでした。秘匿飛行場が関高校の近くに存在するという情報を得て、関係自治体史を調べ、さらには現地を確認し、ドローンによる写真撮影、実地調査と測量調査を実施する行動力に脱帽しました。また、地域の方々からの聞き取りも加えて多くの新たな事実を発見し、太平洋戦争時に地域で何が行われたかを描き出したことは大きな成果だったと思います。さらに研究成果を普及するために自治体に周知と活用において働きかけることは、研究成果を地域にお伝えするために大切に望ましい活動だと思っています。

（日本考古学協会会長、東北学院大学教授 辻秀人先生）

校庭で採集できるトチノミに関心をもったことをきっかけとして、地域の伝統的な食糧資源であるトチノミ利用の現況について、老人からの聞き取り調査や調理実験、縄文遺跡との比較等、多彩な手法を駆使して明らかにしようとしたことは評価できる。さらに在地のトチノミ文化の継承を具体的に提案し実践していることは、注目できよう。当地は『斐太後風土記』（明治6年）によって150年前の生活の詳細がわりに知られており、従来から考古学的に注目されているので、比較研究を勧めたい。

（日本考古学協会副会長、東京大学名誉教授 佐藤宏之先生）